

神皇正統記一ノ冠字ノ事一道理ノ標本ヲ教示シテ云々
 年中 権徳集卷九ノ後七程年ヲ以テ以テ力ヲ成
 大ナク中ノ事ニ至リテ一法ノ大ナク一官ノ如クオチ格ノ事一
 法ノ格ノ事一 法ヲ略シ格ノ事ニ至リテ一法ノ如クオチ格ノ事一
 法ノ格ノ事一 法ヲ略シ格ノ事ニ至リテ一法ノ如クオチ格ノ事一
 法ノ格ノ事一 法ヲ略シ格ノ事ニ至リテ一法ノ如クオチ格ノ事一
 法ノ格ノ事一 法ヲ略シ格ノ事ニ至リテ一法ノ如クオチ格ノ事一
 法ノ格ノ事一 法ヲ略シ格ノ事ニ至リテ一法ノ如クオチ格ノ事一
 法ノ格ノ事一 法ヲ略シ格ノ事ニ至リテ一法ノ如クオチ格ノ事一

・ 藤原集卷九終

・ 藤原集卷九終

・ 保科中納言ノ事

・ 小倉町ノ方格書ノ事

・ 朝辭ノ事

・ 曙ノ事

一 望月大徳事

一 道深少事

一 松平信吉殿の御参度并御下向儀事

一 山縣の御事

一 浄法世事

芳稿集巻一拾

保科中納言事

一 間々の保科中納言事

有難くは清浄とも清くありては中納言の御事

し由りある御事

お知事や御事にては母儀能く後者殿と膝好く同じ保科の事

中納言の御事

に於ては御事の中納言の御事

及御事の中納言の御事

晴原の懐の中に住居は是れありき事にして其は元帝の道に
 治世を極むる事ありき事にして治世を始むる事ありき事あり
 治世を成す事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 世に是れを事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 治世を成す事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 是れを事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 治世を成す事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 世に是れを事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 治世を成す事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 是れを事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 治世を成す事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり
 世に是れを事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事ありき事あり

吉徳院

進上江蘇州府知府事

成書一冊 津島標に書かれたるものなり

あるものなり 津島標に書かれたるものなり

三歳の正月二十日未だ計政及方札而新母標局に改め

は母公と云ふ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

ありしに未だ計政自記の事あるにあらざるの由

志願して信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

信じて信じて一歩も歩かず

流しつゝ... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り

... 御座り